



めざせ大発見
畑の探求者

野菜の知られざる真実を追い求め、
新たな栽培法の確立をめざす畑の探求者。
今回は、サツマイモのつるを長く伸ばして
1本のつる苗からの大量収穫に挑戦。畝づくりと植えつけを
工夫することで、狭い場所での大量収穫を成功させました。

取材・文/和田義秀 撮影/飯口 亮 イラスト/前橋康博

長〜いつるについたイモ99本！ サツマイモのらせん植え

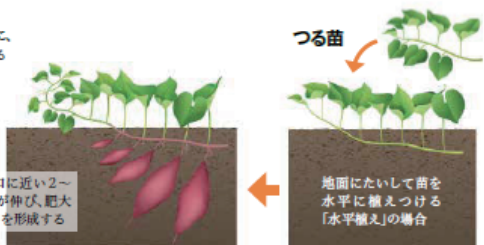
実験背景 ● 狭い畑でもつるを長く伸ばしたい

普通栽培

つるを伸ばして
つるを埋めた場合

新発想

つるを立体的に
配置することで
省スペース化を実現



不定根が根づかないように、
つる返し(つる上げ)をする
のが基本とされている

つる苗の切り口に近い2〜
3節の不定根が伸び、肥大
して塊根(イモ)を形成する

地面にたいて苗を
水平に植えつける
「水平植え」の場合

つるの伸長に合わせて節を埋めていく



土に埋めた節から伸びた不
定根が肥大し、塊根(イモ)
を形成。つるの長さに応じて
イモの増収が期待できる



小山のような畝につるをらせん状に回せば、
狭い場所でも長くつるを伸ばせる

- メリット
- 苗の節約になる
 - イモがたくさんとなる
 - デメリット
 - スペースをとる
 - 収穫がたいへん

次ページで
新栽培法を
実践

サツマイモは、つる苗を植えて育てます。このとき葉柄の3〜4節をしっかりと土に埋めることが大切です。節からは不定根(茎から発生する根)が伸びて、水や養分を吸収する普通根になるものと、テンパンを蓄積して肥大し、「塊根」を発達するものに分化するのですが、この発達した塊根が可食部(イモ)になるのです。

苗は生長すると旺盛につるを伸ばし、その節からも不定根は発生しますが、イモはつるの苗の切り口に近い2〜3節にもっともつきやすいといわれています。

そのため、一般的には伸びたつるから出る根は切ってしまう、必要なイモに栄養を集中させます。「つる返し」という作業で、ひっくり返すのです。

つるを返せずに根付いた不定根をそのままにすると、まれに小さなイモがつくことがありますが、たゞ、繁茂したつるは通常、節の部分が土に埋まってい

ないため、そこから伸びる根は塊根に発達しにくく、基本的に普通根になります。では、伸びたつるの節を土に埋めてやればどうなるか?もしかしたらつるの長さだけイモがつかうかもしれませんが。

ただ、サツマイモのつるを伸ばして埋めていくには、それなりの広い畑が必要で、庭先などの限られた場所で家庭菜園を楽しむ人には、サツマイモは育てにくい作物です。そこで今回は、増収とともに省スペースにもなる栽培法に取り組みます。

ヒントになったのは、子どもが手にしていたソフトクリーム。あの渦を巻くながら上がっていく形状です。畝を小山のように盛り上げて、山の斜面につるをらせん状に回せば、省スペースで効率的にサツマイモを栽培できると考えたのです。加えて、イモを掘り上げるときも山を崩せばいいので、とても楽にできそうです。